



環境スピーチコンテスト 優秀賞に輝く

千葉商科大学主催、環境省・文部科学省等後援の第8回全国高校生環境スピーチコンテストに、水産科2年の大山弘貴君、斎藤心聖君、廣田晃君の3名が応募しました。どうしたら持続可能な社会を築けるか、自らの考えを発表する場がこのコンテストです。

独創性、構成力、論理性等による予備審査を突破し、大山君と斎藤君が12名の本選に進むことができました。同一校から複数が本選に出場したのは全国で馬頭高校だけでした。オンラインによる本選では、予備審査の基準に加えてスピーチ動画と質疑応答等により表現力や応答力が総合的に審査された結果、大山君が見事優秀賞に輝きました。

大山君は、「SGDsのために、今、私たちができること」をテーマに選び、『カワシンジュガイの保全から学んだもの』のタイトルでスピーチを行いました。大山君は、水産科に入学して淡水二枚貝の魅力や面白さに惹かれるようになりました。ところが、近年、カワシンジュガイの生息数が激減していることから、保全活動、保全のための方策についての啓発活動、自治体との情報交換などを行ってきました。これらの実践を基に、「より深く見つめれば、私たち人間が自然と向き合う目そのものが問われているのではないのでしょうか」と力強く訴えかけました。生物の生息の目線に立った河川環境のあり方について一石を投じる素晴らしいスピーチでした。



より深く見つめれば、私たち人間が自然と向き合う目そのものが問われているのではないのでしょうか」と力強く訴えかけました。生物の生息の目線に立った河川環境のあり方について一石を投じる素晴らしいスピーチでした。

【大山君の感想】

まさか自分が受賞するとは思っていませんでした。この経験を生かして、今後も啓発活動を続けていきます。このような状況は貝だけではないので、人間の生物への理解が必要で、継続していくことが大切だと思います。

＜貝を持つ新水産クラブ長大山君＞